

加賀百萬石 五彩を纏う

●会期/ 2018年4月27日(金) → 7月1日(日)

加賀友禅の華展

加賀友禅の歴史は、約500年前の加賀国独特の無地染め「梅染」からはじまります。17世紀中頃には、加賀御国染と呼ばれる技法が確立され、模様が施されるようになりました。正徳2年(1712)には、京都で人気の扇絵師「宮崎友禅齋」が金沢に身を寄せ、斬新なデザインの模様染や友禅糊の技術の定着など、加賀友禅の発展に大きく寄与しました。加賀五彩と言われる藍・臙脂・黄土・草・古代紫の5色を基調とし、写実的な草花模様を中心とした絵画調の柄を描いていることが特徴の一つです。また、「外ぼかし」や「虫食い」という染織技法も用いられています。

本展覧会では、近代から現代にかけての加賀友禅の着物を展示いたします。培われた伝統は、現代の新しい風と共に、今なおその歩みを止めることなく継承されています。繊細な日本の心と、染めの心を絶えることなく伝える加賀友禅。その技の真髄をお楽しみください。

加賀友禅の特徴

加賀五彩

加賀五彩とは、藍・臙脂・黄土・草・古代紫の5色で、加賀友禅の基調になっているともいわれます。加賀友禅作家は、この5色に基づき全体の配色を決めています。



外ぼかし

一般に加賀友禅では、「外ぼかし」といって柄の外側から内側に向かってグラデーションをつける技法が用いられます。中には、「三色ぼかし」といって3色で表現する技法もあります。

虫食い

木の葉が虫に食われた様子を表現したもので、現実感を出しつつ、柄のアクセントとして絶妙な美しさを表現しています。

糸目

友禅流しをすると現れてくる白い輪郭が、「糸目」と呼ばれる糊置き跡の跡です。糊置きは模様を色挿しするときに、模様際を鮮明にし、染料が他の部分に滲むのを防ぎます。



彩色



中埋め



板場友禅作業風景



染料

身延町なかとみ現代工芸美術館

〒409-3301 山梨県南巨摩郡身延町西嶋345(身延町なかとみ和紙の里 内)
TEL 0556-20-4555 FAX 0556-20-4557 身延町HP <https://www.town.minobu.lg.jp/>
和紙の里HP <https://www.town.minobu.lg.jp/washi/> 美術館Twitter @MN_artM

- | | | | |
|------|-------|--|---|
| アクセス | 電車 | JR身延線*1「甲斐岩間駅」下車
●タクシーで約4分(料金片道約1,000円)
●徒歩25分(約2km) | *1 身延線はJR東海道本線「富士駅」又はJR中央本線「甲府駅」より乗り換え可能
*2 和紙の里無料駐車場あり(普通車55台、バス6台) |
| | 自動車*2 | □中部横断自動車道 六郷ICから約5分
●県道9号線を静岡方面に向かい「峡南橋東詰」交差点を右折
□新東名高速道路 新清水ICから約60分
●国道52号線を甲府方面に向かい「峡南橋西詰」交差点を左折 | |
| | 高速バス | 中央高速バス 身延新路線
●新宿駅高速バスターミナルより約3時間 バス停「西嶋」下車 徒歩0分 | |
| | | | |

